

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A : よくできている B : 概ねできている、C : あまりできていない、D : できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
意欲的に取り組む子	自分の思いを出し 遊びを楽しむ子	生活や遊びの中で思ったことや考えたこと、感じたことなどを自分なりに表現している	安心できる保育者がそばで応答的に関わることで、笑う、泣く、怒るなど自分なりの表情、仕草、言葉で伸び伸びと表していた。子どもの表出を保育者が止めないで見守り、耳を傾ける、聞く、受け止めるようにした	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期にコロナ禍を過ごした小学校高学年は人との距離感が近すぎるところがあるが、園児は保育者に甘えたり、年齢に応じて子ども同士で触れ合ったりする中で、力の強弱や程よい距離感が自然と身につけている。生活や遊びの中での自然に人と触れ合う経験が大切である ・友達が廃材で作った物にぶつかってしまった年中児同士、「こわれちゃった」と怒る姿に「ごめんね」と申し訳なさそうに伝えていて、思いの表出ができていたと感じた 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も保育者が遊びの仲間となり一緒に考えたりわくわくしたりしながら、子どもの思いを受け止め応答的な関わりを続けていく中で、まだ思いを出し切れていない子への受け止めや小さな変化への気づきを心がけていく ・子どもだけでなく、生き物の飼育や草花、野菜の栽培を最後まで大人が大切に扱うことを意識する ・片付けまでが遊びという意識を持ち、とっておき方、遊びの終わり方を大事にすると物を大切にできるようになるので、大人も室内や棚の片付け、整理整頓をしていく ・子どものやりたい思いを見逃さず関わり、叶えられた、できたという経験の積み重ねを続けていく
	身近な人やものに関わる中で、思いやりの気持ちを持ち大事にしようとする	身近な人やものに関わる中で、思いやりの気持ちを持ち大事にしようとする	異年齢との自然な関りの中で小さい子をかわいがり、大きい子に憧れる姿から遊びの中で刺激を受ける姿があった。相手の話を聞くことで相手にも気持ちがあることを知りつつあるが、気持ちのコントロールの仕方や伝え方が難しい場面もあり、もっと気持ちがぶつかり合う葛藤体験が必要。生き物の飼育から命の大切さを感じているが、片づけが苦手な子もいるので、もう少し物や場を大切にできるようになりたい	B	A		
	「やってみたい」「どうなるかな」と興味関心がふくらみ、考えたり試したりしながら遊びを楽しんでいる	「やってみたい」「どうなるかな」と興味関心がふくらみ、考えたり試したりしながら遊びを楽しんでいる	今までの遊びや経験の積み重ねから、自ら素材や用具に触れ、自由な発想で考えたり思いついたりしたことを「こうしてみよう」「こうしたらもっとよくなる」と発言して実際にやってみる姿が多く見られた。遊びの続き、足跡を取っておくことで、昨日の遊びを思い出し、やりたいコト、モノの選択をしていた。また保育者が遊びの仲間に入り一緒にワクワクしたり、子どもが考えられるような問いかけをした	A	A		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	学年ごとの子どもの発達を理解し、教育課程と照らし合わせながら月案や週案のねらいを立て、教育保育を進めている	一人一人の子どもの姿を教育課程や保育改善資料と照らし合わせて発達を押し、保育者が願いを持ちながら月案や週案のねらいを立て、教育保育を行った。公開保育でも話し合いの中で発達の押しえや理解を行い、発達や成長を見通した保育ができている	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・発達や育ちには個人差や特性が大きいところがあるので、願いをもって長い目で捉えていくことが大事である ・様々な家庭環境や保護者支援が必要な方がいるが、こども園は毎日、短い時間でも保護者に会える良さがあり、それぞれの思いの伝え合いができる。小学校になると保護者と会う機会がほとんどなくなるため、直接的なコミュニケーションを取ることが難しい。知られたくないことほど早めに伝えようと対応している 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も月案、週案立案時だけでなく、クラス会議や日々の振り返りでも教育課程や保育改善資料を利用し、発達の押しえと理解、振り返りを行っていく ・他クラスの週案を見る機会を増やし、自身の保育の振り返りに活かしていけるようにする ・職員間の共有は保護者の安心感につながるため、家庭環境の多様化の中、対応の難しさを感じることも多いが、まず子どものことを一番に考え必要な支援をしていく。会議に参加しない職員への伝達が不足している時がある。紙面だけでなく口頭で伝達し、また報告を待つだけでなく自分から進んで聞くようにする ・子どもが今、何を大切にしているか、何に楽しさ、面白さを感じているかを考え、引き続き朝の環境準備を行っていく。クラス間での日々の伝え合いだけでなく、乳児・幼児会議にお互いに参加し、子どもの姿や育ちの共有を行う
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	様々な家庭環境や保育形態がある中で一人一人の状況を職員間で共有し、安心して過ごすことが出来るよう配慮している	登園時、一人一人の受け入れを丁寧に行い、保護者に子どもの様子を聞き、担任間・職員間で情報を伝え合っている。配慮が必要な家庭の様子や保護者面談の内容についてケース会議等で共有し、安心して過ごせるようにしているが、全職員での情報共有ができていないことがあった	A	A		
	(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもの遊びの場面での今の思いを捉えたり、姿を職員間で伝え合ったりしながら、楽しさやおもしろさを感じられるような環境作りの工夫をしている	子どもの視線、態度、仕草から「もっとこうしたい」など思いを意識したり、なぜだろう、楽しさや面白さをどこに感じているだろうと考えて関わりながら遊んだり、「どうすればいいか」を投げかけたりした。朝の環境準備や保育の中で、クラスだけでなく他クラスの職員とも共有するようにしたが、個の深い見取りまではできないことがあった	A	A		
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	園庭環境図を使って危険箇所を確認したり、減災教育をもとにした避難訓練を行ったりしながら自分の命を守ることの大切さを知らせている	減災教育の学びから避難訓練の計画を立て、毎月訓練を行うことやユレタの使用により、子ども達にもトカゲやカエルのポーズが浸透してきている。訓練後すぐに反省を行い、次回に活かせるよう修正を行っている。また実際に津波警報アラートが発令された際に見えてきた課題を、職員で出し合い災害の意識が高まった。毎月のヒヤリハットの事例から事故防止につなげている	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・やりたいことをやる中で、思いのぶつかり合いからケンカをして手を出し合ったり、転んで怪我をしたりして人の痛みに気づけることもあるので、これからも見守ってほしい ・小学校は職員全員にPCがあり、ICT掲示板で情報共有しているが、すぐに共有したいことはこども園のように、職員全員が見えるところに用紙を貼りだしている。情報共有の工夫ができていく 	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも様々な災害を想定し、毎月の避難訓練の積み重ねをしていく。(避難滑り台の使用、普段訓練に参加しない職員の参加、保護者のユレタ体験、園長・副園長不在時の訓練など) ・ヒヤリハット事故防止について職員間で周知を丁寧に行う
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	自分の体に興味関心を持ち、健康の大切さを知らせるために各学年に合わせた食育、保健指導を行っている	手洗い、うがいは年齢に合わせた声掛けや見守りを行っている。野菜の栽培やクッキングを行い食育に関心を持てるようにしている。給食室と連携し和食のダシや噛み噛み強化メニューを提供したり、子どもの目線に給食サンプルを置き、献立ボードに季節の飾りをつけたりして関心を深めた	B	B		
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	特別支援教育保育活動(ミッキー活動)での振り返りを職員間で共有し、支援方法を自身の実践に活かしている	担当職員が具体的なサポートプランを立て、支援児の特性や発達を共有し一人一人に合った支援を行い、個別配慮も職員会議で周知している。支援担当者がミッキー会議で子どもの姿や支援方法を話し合い、共有している	B	A		
5 組織運営	(1)組織体制の充実	職員一人一人の良さを発揮し認め合いながら教育保育活動の実践や行事の準備を行っている。また、企画書の提示や赤ペンを入れる等を行い、進捗状況が全職員に共有できるようにしている	担当者が企画書を掲示し、変更点に赤ペンを入れて、行事の準備を職員全員で行おうとする協体制ができている。またコミュニケーションを図りながら、職員一人一人の良さを活かしている。また職員会議で分掌の振り返りを行うことで、進捗状況の把握がしやすくなった	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・大人や小学生でも身につけていないこともあるが、手洗い、うがいが自分から進んでできるようになるとよい ・保護者は、先生方の専門性や優しさで受け止めてもらうことで安心できていると思う。子どもの価値観の形成には親の価値観の影響が大きいが、“人を許さない”ではなく“人それぞれ、こういうところもある”と考えられるといい。コミュニケーションが苦手、子育ての仕方がわからない保護者が増え、保護者支援の重要性やこども園に求められていることが多く、インクルーシブしていく大変さはあるが、人の育ちはいつからでも変わっていくので、頑張ってもらいたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス間での伝達やフリー保育者への会議報告する人が決まっているが、できていないことがあったので、企画書、会議報告の口頭伝達を徹底していく。フリーノートの活用も行う
6 研修	(1)研修体制の充実	研修テーマの手立てを視点にワークシートを使って公開保育や拠点園事業で学び合い、自身の実践に活かしている	ワークシートを活用し、子どもの今の思いや発達を押しえ、考えたり試したりすることが出来るあそび場の工夫をテーマに職員で学び合い、実践に活かしている。またワークシートを事務室内に掲示しておくことで、研修に参加していない職員も学びにつながっている。清水区拠点園公開保育を通しての学びを得ている	A	A		
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	子どもが自分の思いを出し、考えたり試したり出来るような場の工夫や素材、教材、用具の用意をしている	クラス・幼児・乳児会議など職員間で子どもの思い、育ちを押しえ、経験させたいことを出し合っている。毎朝の環境整備で、子ども達が考えたり試したり出来るような玩具や素材の種類、数、置き方など準備し、子ども達は自由な発想で選んで使っている。保護者や職員、給食室と連携し、廃材を集めて遊びに取り入れている	A	A		
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	子どもの姿や教育保育の意図が保護者に伝わるような書き方や写真添付の工夫をしている	子どもの遊んでいる姿だけでなく、子どもの気づきや育つ姿、遊びの広がり、保育者の意図がわかるような文章を考え、写真添付を行っている。また配信だけに頼らず、日々のコミュニケーションを積極的に行うことで保護者からも伝えてくれることが多く、連携を図っている	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・清水小学校ではソーシャルワーカーを活用し、清水三中にも支援をつなげている。今後、こども園ともつながっていくとよい ・近隣園、近隣小学校、地域とのつながりがこれだけ多く持っていることで、自信をもっていいと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・園外へ出向く機会を増やし、地域や近くのモノ、コトに自ら関り、清水地区の良さをもっと知り、伝えられるようにしたい ・来年度の親子遠足で清水港に出掛ける予定
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	小学校や近隣園との交流会を定期的に行い、地域の子ども同士が交流することで就学への安心感につながっている	職員が近隣園、近隣小学校の公開保育・公開授業・幼少接続協議会に参加し、学んできたことや情報を共有し保育に活かした。川原こども園、清水聖母保育園との交流、清水小学校、清水浜田小学校児童との交流会、清水第二中、清水第三中生職場体験、家庭科授業体験、清水看護学生実習受け入れを行った	B	A		
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	港へ出向き大型船との出会いや小学校の海洋文化学習の情報を得たりしながら地域の良さを知り、保育につなげている	年長児が清水地区敬老会に参加したり、清水港やマリナターミナルなど大型客船の来航スケジュールを調べて出掛けたり、巴川や橋、神社など地域ならではの場所に出掛けようとし、近所の方や外国籍の方と挨拶を交わした。海の生き物や海岸の砂に関心を持って調べたり、浮くことに興味を持ちプールで遊んだりした。次郎長通り商店街の七夕まつりには、笹飾りに短冊を飾ってもらい交流を図った	B	A		